

令和四年度 入学者選抜学力試験 国語（前期／教育）解答例

一

- 問一 (ア) 緩 (イ) 臨 (ウ) 曖昧 (エ) 水滴 (オ) 駆

問二 私の意識の内部を超えているものが、私の意識のもとに現れでるということ。(三十六字)

問三 心や意識の特質が、物質の特質や出来事と同類のものではないと考えられるから。(三七字)

問四 世界について何事が正しいと信じることを通じて、世界をシリアルスに受けとめ、その世界に身をゆだねることができるようになる。(六〇字)

問五 私が「世界一のパティシエになる」ことを希望する場合、それは現実世界においてパティシエとして活躍することを希望している。また、そのことは実現することもしないこともあり得る。(八五字)

問六 クオリアだけに注目することは、もっぱら内面にのみ向かうことであり、心のあり方はそれにとどまらず、世界について考えたり、世界の中で行動したりすることに関係するから。(八四字)

二

- 問一 (a) ナ行下二段活用の動詞「たづぬ」終止形の活用語尾(一部)

(b) サ行変格活用の動詞「す」未然形

(c) 完了の助動詞「り」連体形

- (d) (主格の) 格助詞「が」

問二 一晩中、暗い夜の闇の中で、あたかも光っているかのように咲く卯の花の様子。

(別解) 黒い闇を連想させる黒田という地名を持つ里にありながら、一晩中発光するかのように白い花を咲かせる卯の花の様子。

問三 B この頼りになる人だと思っていた宿の管理人でも、急用だということで上京してしまったので、

C 「田舎の住居での慣れない暮らしはどうにしているのか」などと、通り一遍でなくお気遣いくださるので、

問四 旧知の優婆塞に思いもよらず旅先で出会い、仏法について語り合う好機を得たのに、自身に深い理解力や信仰心がないためその機会を生かすことができず、ただ世間話だけで終えてしまうことを残念に思う正徹（作者、語り手）の気持ち。

三

問一 (a) あやまでり (b) のみ

問二 舟を西河に浮かべる楽しみを共にできる立派な人物を、どうにかして見つけたいものだ。

問三 優れた人物は、その価値を評価して大事にする人の下に自ずと集まるものだということ。（四〇字）

問四 われなほしをこのままでいふべけんや。（「べきか」「べきや」も可）

問五 一握り増やそうと減らそうと、飛ぶのが高くなつたり低くなつたりはしません。

（飛ぶ高さに変化を及ぼすものではありませんなどでも可）

問六 二千人の食客がいると誇ったものの、実際はどれほどの役に立つかという固桑の問い合わせに、自信をもつて答えることができなかつたため。（六五字）